

平成30年度障害者支援施設けやきの村事業報告書

障害者支援施設として快適な環境のもとで、個人の尊厳が最大限に尊重され、自己決定に基づくその人らしい生活の実現をめざすとともに、地域生活を支える多様な事業の展開と就労に関する支援を充実させ一般企業への就労を含めた社会経済活動への参加を促進するなど、利用者の自己実現をめざした支援を行うため、「平成30年度社会福祉法人けやきの村事業計画」に基づき、それぞれの分野において関係法令に則った適正なサービスの提供と質の向上に努め、次の各項目にそって事業を行った。

1, 実施した障害福祉サービス事業

(1) 生活介護事業

利用者が自己決定に基づいたその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護、機能維持のためのリハビリ訓練、生活の質を高めるための集団レクリエーション活動、創作的活動または生産活動の機会の提供、その他の便宜を適切かつ効果的に行った。

(2) 就労移行支援事業

利用者の就労に対する意欲を十分に尊重し、生産活動その他の活動を通して、就労に必要な知識および技能の習得及び地域生活に必要な能力を身に付けるため、必要な訓練・実習その他の便宜を適切かつ効果的に行った。

(3) 就労継続B型事業

利用者の働きたいという意欲を十分に尊重し、その人に合った生産活動の場を提供するとともに社会生活における習慣の体得と技能の習得ができるよう、必要な訓練およびその他の便宜を適切かつ効果的に行った。

(4) 施設入所支援事業

利用者が日中活動と併せて夜間においてその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行った。

(5) 短期入所事業

居宅においてその介護を行う方の疾病その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者に対し、短期間の入所をさせ入浴・排泄および食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行った。

2, 運営管理及び諸会議等

(1) 施設は、契約に基づいた利用者本位の支援の提供を基本とし、次の環境整備を行った。

〔環境整備〕

- ① 温冷配膳車用電源工事
- ② 機械浴槽修繕
- ③ 厨房吸気ダクト清掃
- ④ 厨房冷凍庫修繕
- ⑤ 空調機 GHP 室外機修繕
- ⑥ 非常用照明器具更新工事
- ⑦ 非常用発電設備修繕

〔物品購入〕

- ① 就労通所利用者休憩室用椅子・テーブル購入

- ② 送迎用中古車両購入（フリード）
- ③ 電動ギャジベッド2台購入
- ④ 医務用製氷機購入

(3) 個別支援計画策定会議を開催し、利用者の生活の質を重視したその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況及びニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づいた適切なサービスの提供に努めた。

個別支援計画策定会議開催回数；93回

（生活介護；37回・就労支援B型；44回・就労移行；12回）

(4) 施設の適正な運営のため次の会議を開催した。

マネジメント会議；12回

(5) 公正・公平な事業運営と利用者のサービス選択に資するため、サービス内容に関する情報の提供、財務諸表および事業報告書等の開示を行うとともに、法人機関紙として「けやきの村便り」を3回発行しました。なお、平成26年3月31日に開設した公式ホームページを積極的に活用し、情報提供・情報開示を行った。

平成30年度におけるホームページへの情報提供件数

けやきの村	15件
青松苑	15件
静心園	10件
桃の里	2件
相談支援	8件
合計	50件

(6) 福祉サービスに対する利用者の苦情や意見を汲み上げ、利用者施設が対等の関係を築くとともに利用者本位の福祉サービス提供を実現するために苦情解決委員会を開催し、苦情解決体制の充実に努めた。

苦情解決委員会：平成30年6月13日開催

平成29年度における苦情については、下記のとおりである。

苦情受付件数；1件（職員の態度を改めてほしい）

(7) 利用者が施設において、安心・安全な生活が送れるよう、ヒヤリ・ハット・事故報告書による未然防止および再発防止に努めるためにリスクマネジメント委員会を開催した。

ヒヤリ・ハット・事故報告件数；87件（前年度比22件増）

〔内訳〕転倒58件（前年度比18件増）・外傷4件（前年度比1件減）・破損等2件（増減なし）・接触7件（前年度比7件増）・火傷0件（増減なし）・誤飲、誤嚥1件（前年度比1件増）・異食0件（前年度比1件減）・誤薬2件（前年度比2件増）・所在不明0件（増減なし）・施設外徘徊0件（前年比4件減）・施設内徘徊1件（前年度比1件増）・暴行1件（前年度比2件減）・自虐行為2件（前年度比1件増）・紛失0件（前年度比1件減）・その他9件（前年度比1件増）

上記の87件のほか、平成25年3月11日付24自第4657号福島県障がい福祉課長名で通知のあった事故に該当する事故件数 ⇒ 3件（転倒2件、誤嚥による窒息1件）

(8) 障害者の虐待防止に努めるため、職員（55名、無記名）を対象に「障害者虐待防止チェックリスト」を活用し調査（平成30年6月）を行った。

虐待防止に関しては、法人内新任職員研修会の研修テーマに加えるとともに、11月より朝の連絡

会議において、月1回「障がい者虐待防止チェックリストの結果」から虐待行為であるという認識が薄い項目について、なぜ虐待なのかを説明する時間をとった。外部研修については、福島県障がい者虐待防止権利擁護研修会、基幹相談支援センター主催の新任職員向け研修会等へ積極的に派遣した。

また、月1回虐待防止・権利擁護委員会を開催し、職員の気づきを大切にしながら日常の支援の中で感じたことを中心に話し合い、会議録の回覧により職員に周知した。

- (9) 労働安全衛生法の改正に伴い50名以上の事業所に義務付けられた「ストレスチェック」を実施し、職員のメンタルヘルスケアに努めた。
- (10) 前年度の集団感染を踏まえ、蔓延防止マニュアルを策定(11月)し職員に周知徹底を図り、11月より3月まで対策を実施するとともに、インフルエンザやノロウイルスなどの感染性胃腸炎の予防のため全居室に空気衛生機を設置し細心の注意を払い、感染を未然防止に努めた結果、インフルエンザ感染者を通所利用者1名、職員2名にとどめることができた。
- (11) 職員の資質向上の観点から、個人研修計画に基づき積極的にOFF-JTを活用しました。職員の研修会の参加については、福島県社会福祉協議会研修センター主催の研修会を中心に参加し職員の資質の向上に努めました。併せて、法人主催の新任職員研修会にも参加するとともに、施設主催で毎月研修報告会を開催した。また、自己啓発援助制度を積極的に活用し自己研鑽に努めた。

◎外部研修会参加状況；福島県社会福祉協議会研修センター主催研修会	20回	35名
社会就労センター協議会関係研修会	4回	9名
身体障害者施設協議会関係研修会	4回	19名
その他の研修会・セミナー等	18回	25名
合計	46回	88名

◎内部研修会参加状況；法人主催	新任職員研修会	1回	3名
	普通救命講習会	1回	5名
	新規採用者就業前研修	1回	3名
委員会主催	ポジショニング・トランスファー研修(教育研修委員会)	1回	22名
	知的障害者処遇困難事例研修(教育研修委員会)	1回	25名
	公文書作成研修会(教育研修委員会)	1回	28名
	意思決定支援研修会(虐待防止・権利擁護委員会)	1回	24名
	成年後見制度研修会(虐待防止・権利擁護委員会)	1回	25名
	人権擁護研修会(虐待防止・権利擁護委員会)	1回	25名
	交通事故防止と冬季の安全運転(事故防止委員会)	1回	14名
施設主催	勉強会	5回	122名

テーマ；①事業計画、報酬改定について

②社会福祉の理念について

③全国セルフ・障がい児者施設協議会伝達研修

④高次脳機能障がいについて

⑤食事介助の基本とコツについて

研 修 報 告 会 11回 182名

◎自己啓発援助制度に基づく研修会参加状況 5回 10名

◎喀痰吸引研修(第三号研修)(特定の者対象)修了者(認定特定行為業務従事者認定証交付者)2名

(12) 毎月1回衛生委員会を開催し、職員の労働安全衛生に努めた。平成30年度における活動内容は以下のとおり。

開催月日	委員会議題	活動内容
4月17日	法人内クラブの活動計画について	職員定期健康診断実施 花見会、歓送迎会実施
5月 8日	新任職員の健康管理について	各種クラブ活動の推進 職員腰痛検査(1回目)の実施
6月12日	職員定期健康診断の結果について	普通救命講習会の実施 虐待防止アンケートの実施
7月10日	年次有給休暇の取得状況について	敷地内全面禁煙(7/1~) 暑気払い ストレスチェックの実施
8月21日	虐待防止アンケートの結果について	職員旅行の実施(年間)
9月18日	「職場巡視」 職場巡視の結果について	けやき祭の実施
10月 9日	ストレスチェックの結果について	職員血液検査実施 (夜間勤務職員対象)
11月13日	インフルエンザ・感染症対策について (各課の対策)	職員腰痛検査(2回目)実施 健康ボウリング大会の実施
12月11日	職員血液検査の結果について	忘年会の実施 腰痛予防アンケートの実施 交通事故防止の研修実施
1月 8日	腰痛予防アンケートの結果について	
2月20日	心身のリフレッシュについて	防犯講習会
3月19日	平成30年度活動報告 平成31年度活動計画(案)について	

(13) 福島県北地区における身体・知的・精神の三障害の施設・事業所・団体との連携を強化し、地域の中での福祉施設として、福島県北地区障がい福祉連絡協議会、福島市障がい者地域生活支援協議会及び伊達市自立支援協議会に参加し、その一翼を担った。

(14) 平成30年度福島市障がい者週間記念事業の実務担当者として職員(2名)が参加し、障がい者週間の啓蒙活動に寄与した。

(15) 中野地区展覧会の実行委員として職員(1名)が参加し、企画・運営に参画し、地域活動を支える団体としてその一翼を担った。

- (16) 中野地区大運動会の共催団体として実行委員会に職員（2名）が参加し、企画・運営に参画するとともに、利用者・職員が運動会の競技にも参加し、その一翼を担った。
- (17) 平成20年度より推進している「花いっぱい運動」を展開し、花と緑を大切にしたい潤いのある毎日を目指し、そこに住む人・そこに働く人、そしてそこに訪れる人に「癒しと安らぎ」を与えられるよう努めた。
- (18) 原発事故に伴い社会福祉施設においても節電に対する取組みが求められるなか、平成30年度においても省エネ対策チームを中心として「省エネ、節電運動の推進・ご協力をお願い」を掲示するとともに、こまめな消灯やアイドルリングストップ、空調温度の管理、自動ドアの電源オフなどの対策を行い、節電に努めるとともに、経費の節減・地球に優しい環境づくりに努めた。
- (19) けやきの村三つの定め「利用者に質の高いサービスを」「職員の生活安定」・「けやきの村の経営の安定」を基本として、全職員が意識を共有し、働き甲斐のある職場づくりに努めた。

3. 利用者へのサービス提供について

(1) 生活支援

- ①利用者の生活の質を重視したその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況およびニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づき適切なサービスの提供に努めるとともに、適切な時期にモニタリングを行い、利用者の実情に沿った計画の見直しなど、きめの細かいサービス提供に努めた。
- ②グループワークの場を活用し、対人関係におけるマナーと円滑な人間関係の形成や施設運営・行事、職員の接遇対応及び給食等に対する意見・要望を汲み上げた。
- ③日中活動としての創作活動（毎月第4水曜日）や喫茶（毎月第3水曜日）・集団レクリエーション（毎週月曜日）、音楽療法（毎月最終月曜日）等レクリエーションメニューの充実を図り、自発的に参加する機会を提供するとともに、社会的な活動への動機付けとなる支援に努めた。

(2) 健康管理

- ①利用者の健康維持のため、利用者個人の障害程度や健康状態を把握し、日常の観察を密にして定期健康診断等を実施するとともに、嘱託医及び医療機関等との連携を行い、疾病の早期発見・治療に努めた。
- ・健康診断の実施
 - 胸部レントゲン検査 受診者；107名（7月5日、61名、8月9日、46名）
 - 心電図・肝機能検査等 受診者；103名（10月4日）
 - 貧血・血糖検査等 受診者；103名（10月4日）
 - 〃（第2回目）受診者；105名（3月7日）
 - ・嘱託医の出務
 - 生活介護～厚生会クリニック 毎週1回
 - 就労支援～厚生会クリニック 毎月2回
 - ・機能訓練の実施 毎日
 - リハビリテーション実施計画に基づき、入所者及び通所者に対し、機能訓練やADL指導を行った。
 - ・体重測定 毎月実施
 - ・インフルエンザ予防接種 107名接種

・入院の状況

延べ入院者数 57名（実人員18名）（前年度は延べ58名、実人員14名）

- ②インフルエンザ及びノロウイルス等の感染予防対策として、食堂ホール、就労玄関に「電子式空気清浄機」（塩素系除菌水（ソリューション・ウォーター）を噴霧できる空気清浄機（リース対応）を、1F、2Fケアカウンターに同様の「ソリューション霧化器」を設置するとともに、廊下やトイレ前、居室前の施設内各所に手指消毒用速乾性アルコール液を配置するなどした。また、12月からは家族会からの援助を受けて各居室（全65室）に空気衛生機を設置し蔓延防止に努めた。
- ③利用者の健康に関する個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護法等関連する規則を遵守し、健診結果や通院状況などの健康情報は適正な取扱いの確保に努めるとともに、利用者の情報を他の医療機関等と上手く共有し、継続的な治療と看護に生かした。

（3）給食

- ①献立は十分な栄養と変化に富んだ内容とし、また調理にあたっては利用者の嗜好や身体的条件による咀嚼や食事動作の障害を十分に考慮し、利用者に満足してもらえる給食の提供に努めた。

・嗜好調査の実施（2月22日～3月15日）

- ・給食委員会の開催 毎月実施
- ・選択メニューの実施 年38回（前年度40回）
- ・鍋物の日の実施 年 2回（前年度 3回）
- ・バイキングの実施 年 1回（前年度 2回）

・治療食等の実施（平成31年3月31日時点）

脂質コレステロール食	0名（前年度 2名）
カロリー制限食	2名（前年度 4名）
塩分制限食	5名（前年度 4名）
刻み食	10名（うち通所者1名）（前年度12名、うち通所者1名）
超刻み食	10名（前年度 9名）
ミキサー食	0名（前年度 2名）

- ・食品自主検査、検便、厨房内清掃は、給食業務委託業者において実施した。
- ・防鼠、防虫施行管理業務は、委託業者において実施した。

- ②災害発生時における復旧時までの非常備蓄品として、アルファ米・保存水・レスキューフーズ等の食品、簡易食器（紙皿・紙コップ・割り箸等）等を概ね4日分準備した。
- ③入所利用者の栄養健康状態の維持や食生活の向上を図るため、個別の栄養、健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを実施するため、個々の利用者とのアセスメントを踏まえた栄養ケア計画策定のため、栄養ケアマネジメント会議を開催し、生活介護利用の入所者53名、就労系事業利用の入所者21名の計画作成及びモニタリングを実施した。

（4）就労支援

- ①就労継続支援B型事業所においては、利用者の障害状況や適性、地域の実情や景気動向を十分に勘案して作業種目を選定し、個別支援計画に基づき支援を行った。
- ②工賃向上に向けた取り組みとして、主なものとして以下のことを行った。
- ・毎月の月例会において利用者に対し工賃向上の取り組みについて説明を行った。
 - ・利用者一人ひとりに平成30年度の目標工賃額と実際の支給額について説明し配布した。
 - ・施設外就労としてアパート清掃及び特別清掃について、平成29年度より大幅に件数を増やし、

⑥年間事業収入額（新体系移行後）

年 度	年間事業収入額	年 度	年間事業収入額
平成30年度	19,654,262円	平成24年度	12,152,621円
平成29年度	19,781,663円	平成23年度	12,133,366円
平成28年度	14,039,938円	平成22年度	10,950,015円
平成27年度	13,301,930円	平成21年度	11,101,596円
平成26年度	12,657,290円	平成20年度	12,842,454円
平成25年度	10,905,022円	平成19年度	15,232,222円

⑦平成22～29年度事業別月額平均工賃額

事業所区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
工賃引上げ計画目標工賃	17,300円	20,900円	15,500円	18,000円	20,000円	15,000円
就労継続支援B型事業所	12,743円	14,795円	14,605円	12,854円	14,228円	14,661円
就労移行支援事業所	11,106円	16,394円	16,925円	9,081円	8,237円	9,449円
生活介護生産活動事業	301円	332円	477円	707円	532円	475円
事業所区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
工賃引上げ計画目標工賃	15,500円	16,000円	16,500円			
就労継続支援B型事業所	15,733円	16,449円	17,429円			
就労移行支援事業所	12,404円	11,249円	7,539円			
生活介護生産活動事業	534円	616円	690円			

⑧平成27～29年度工賃引上げ計画書による目標工賃額

事業所区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
工賃引上げ計画目標工賃	15,000円	15,500円	16,000円	16,500円

(5) 各種訓練等の実施状況

①介護外出（一人では外出できない利用者のための訓練）

- ・生活介護 実施回数；23回 65名参加（実人員；45名）
- ・就労支援 実施回数；10回 24名参加（実人員；6名）

②バスハイク

- ・生活介護 実施回数；9回 38名参加
（四季の里ビール園、道の駅よねざわ）
- ・就労支援 実施回数；1回 7月21日（仙台市科学館、仙台ビール園）
利用者39名、父兄12名参加

③一泊旅行

- ・就労支援 実施回数；1回 9月14日～15日（栃木、日光・鬼怒川方面）
利用者26名、父兄7名参加

④ゴールデンウィーク・お盆休暇・年末年始休暇の帰省状況

- ・ゴールデンウィーク 9名
- ・お盆休暇 19名
- ・年末年始休暇 18名

(6) 父兄参加・地域開放行事の実施状況

- ①花見会（4月21日実施）
- ②盆踊り大会（8月3日実施）
- ③けやき祭（9月30日実施）
- ④芋煮会（10月20日実施）

(7) 対外行事等への参加状況

- ①三井流舞踊感謝大会（4月8日）5名参加
- ②福島県障がい者総合体育大会（いわき市）（5月20日）11名参加
- ③福島市障がい者スポーツ大会（10月13日）9名参加
- ④中野地区大運動会（10月7日）5名参加
- ⑤障害者週間記念事業ふれあいのつどい（12月1日）8名参加
- ⑥中野地区展覧会出品（2月2日～3日）9名10点出品

4. 事故防止について

(1) 毎月の訓練については、火災・地震・水害等の非常災害時に利用者・職員が迅速・適切な行動がとれるよう、災害内容の想定や発災の時間帯等を工夫し訓練の充実を図りました。また、法人施設間・地域防災協力者・消防署・地域消防団など地域の方々との連携の強化のための「総合防災訓練」の実施及び「総合防災対策協力者懇談会」を開催した。

また、神奈川県相模原市の障害者支援施設において発生した利用者殺害事件を契機に、防犯対策に取り組むべく、職員対象に「防犯講習会」を開催した。主な訓練内容は下記のとおり。

- ①避難訓練の実施 毎月1回
- ②総合防災訓練の実施 年1回（平成30年11月21日）
- ③夜間想定防火管理検証 年1回（平成30年6月28日）
- ④地震・水害想定避難訓練 年2回
- ⑤消防設備法定点検 年2回
- ⑥火気・電気設備自主点検 年6回
- ⑦防災講話（ビデオ上映） 年1回（平成31年3月20日）
- ⑧飯坂消防署による防火査察 年1回（平成30年7月25日）
- ⑨総合防災対策協力者懇談会 年1回（平成30年11月21日）
- ⑩法人内各施設合同通報訓練 年1回（平成30年8月30日）
- ⑪防犯講習会 年1回（平成31年2月28日）

(2) 新規採用者・異動職員を対象に、消火器・防火扉・非常放送等の施設内の設備及び取扱い方法を説明した。

(3) 新規採用職員等を対象に、年2回普通救命救急講習会を開催した。

(4) 新規甲種防火管理講習会に職員1名を派遣し、防火管理者の資格を取得させた。

(5) 福祉避難所の開設を想定して、小型自家発電機及びジェットヒーターの使用訓練を実施した。

(6) 土砂災害の未然防止のために「防災対策～土砂災害等の未然防止のために」を基本として、土砂災害警戒区域・土砂災害危険箇所・地すべり防止区域および地すべり危険箇所等の情報を全職員で共有し、有事の際の対応に万全を期した。なお、静心園南側堰坂地域が急傾斜地の崩壊による特別警戒区域（平成21年1月30日福島県告示第62号）となっている。

(8) 伊達市、伊達市社会福祉協議会、福島県北地区障がい福祉連絡協議会と連携し、平成30年11月

29日に伊達市霊山総合福祉センターで開催された福祉避難所開設・受入訓練及びそのあとに開催された意見交換会に参加した。

7, 施設の利用状況（各月初日現在在籍者数） (名)

	入 所				通 所				合 計
	生活介護	就労B型	就労移行	計	生活介護	就労B型	就労移行	計	
4月	53	23	0	76	8	35	4	47	123
5月	53	23	0	76	8	37	3	48	124
6月	53	22	0	75	8	37	3	48	123
7月	54	21	0	75	8	37	3	48	123
8月	54	21	0	75	8	37	3	48	123
9月	54	21	0	75	8	37	3	48	123
10月	54	21	0	75	8	37	3	48	123
11月	53	21	0	74	8	37	3	48	122
12月	54	21	0	75	10	37	3	50	125
1月	54	21	0	75	10	37	3	50	125
2月	54	21	0	75	10	37	3	50	125
3月	54	21	0	75	10	37	3	50	125
合 計	644	257	0	901	104	442	37	583	1,484
(平均)	53.7	21.4	0	75.1	8.7	36.8	3.1	48.6	123.7
前年度平均	52.6	23.4	0.1	76.2	8.9	36.2	2.3	47.5	123.7

3/31現在	54	21	0	75	11	37	3	51	126
--------	----	----	---	----	----	----	---	----	-----

8, 新規利用者及び退所の状況

	新 規	退所者	備 考（退所者の状況）
生活介護	6	4	死亡3名、他施設1名
就労B型	5	2	けやきの村生活へ1名、他事業所へ1名
就労移行	1	1	B型へ1名
(合 計)	12	7	

9, 定員充足率（平成31年3月31日現在） (名)

	定 数	現 員	充 足 率	備 考
生活介護	54	65	120.4%	
就労B型	50	58	116.0%	
就労移行	10	3	30.0%	
(合 計)	114	126	110.5%	
施設入所	80	74	92.5%	

10, 障害支援区分状況（平成31年3月31日現在 通所者は除く。）（名）

	生活介護	就労B型	就労移行	合 計	割 合	割合（前年度）
6	16	0	0	16	21.3%	18.4%
5	11	0	0	11	14.7%	13.2%
4	16	4	0	20	26.7%	25.0%
3	11	10	0	21	28.0%	30.3%
2	0	4	0	4	5.3%	10.5%
1	0	3	0	3	4.0%	2.6%
区分無	0	0	0	0	0.0%	0.0%
合計	54	21	0	75		
前年度	53	23	0	76		

11, 短期入所の利用状況

	利用者数	利用日数		利用者数	利用日数
4月	12名	49日	10月	16名	56日
5月	12名	43日	11月	15名	63日
6月	13名	45日	12月	16名	49日
7月	13名	47日	1月	13名	60日
8月	13名	54日	2月	13名	53日
9月	15名	61日	3月	17名	53日
			合 計	168名	633日
			前年度	141名	676日

12, 通所利用状況（就労支援事業利用者）

	利 用 者 数 (名)			基本日数	平 均 利用日数	利 用 率	備 考
	B 型	移 行	合 計				
4月	36	4	40	22日	18.2日	82.7%	
5月	37	3	40	23日	19.3日	83.9%	
6月	37	3	40	22日	18.0日	81.8%	
7月	37	3	40	23日	19.1日	83.0%	
8月	37	3	40	23日	18.0日	78.3%	
9月	38	3	41	22日	16.5日	75.0%	
10月	37	3	40	23日	19.5日	84.8%	
11月	37	3	40	22日	18.3日	83.2%	
12月	37	3	40	23日	17.5日	76.1%	
1月	37	3	40	23日	17.8日	77.4%	
2月	37	3	40	20日	15.9日	79.5%	
3月	37	3	40	23日	17.9日	77.8%	
合 計	444	37	481	269日	216.0日	80.3%	前年度76.5%